スティ ブン シュワルツ 米国出身のジャ ナリスト

:

明:平安の にて やしを得た米国人ジャ ナリスト 著者が、なぜイスラ ムに改宗したのかを ります。

目: 事新改宗者ムスリムの逸 著名人

より: スティ ブン シュワルツ

日21 Sep 2015

集日 21 Sep 2015

私は米国人ジャ ナリスト 著者です。1997年に49 のとき、30年以上に渡る研究と人生体を通じて、私はイスラ ムに改宗しました。その 断は、私の人生における多くの を反映させたものでした。

私は大半の米国人にとって非常に わった 境で育ちました。私の父はユダヤ教徒で、母は有名なプロテスタント原理主 の 者の娘でした。父は宗教学生（Yeshiva-bocher）として、そして母はバイブル に 心な 境で育ち、彼女は旧新 のどちらにも精通していました。

私はサラエヴォで、自分が旅行者とは思えませんでした。そこではムスリムの信仰者や学者たちと直接の をすることができました。

の信仰心は、1930年代の出来事によって されました。母は「神の 民」として教えられていたユダヤ教徒たちへのナチスによる抑 への抗 としてキリスト教を 教し、 にユダヤ教に改宗しました。

はユダヤ教を信じていながらも、共 党による影 下で い を ごしました。それは彼らの人生における悲 的な矛盾でした。彼らは生まれ育った宗教に失望していました。しかしながら、自由 急 主 と神との を行ったり来たりしながらも、彼らはシオニズムについて

は 心な信奉者ではありませんでした。

私自身も中　争については心を痛めており、イスラエル アラブ の和平と正 をいつも望んでいました。

私は青年 代、 左に属すと同 に を くのが好きでした。また、　から宗教の混乱と き目について知らされ、それを反 されていたにも わらず、神を信じていました。私はその　を解消したいと っていました。

私は、米国においてイスラ ムがもたらすであろう最も大きな 献は、人 差 の解消と社会道 であると信じています。

私が真理の探索へと んだ第一 は、カトリック教会でした。改宗までには至らなかったものの、カトリックの神秘的文学には深い感 を受けていました。

それ以前から、スペインのカトリック神秘主 者たちによる素晴らしい　の背 には、スペインのイスラ ムの 史によるイスラ ム的影 が潜んでいたことを学んでいました。それからは何度もスペインへ旅し、イベリア半 における きに渡るイスラ ムの影 の痕 を べに行きました。作家として、私は 年そうした 象を研究しました。私は特に、イスラ ムによって大きな影 を受けていたトルバドゥ ル 人について研究していました。

私は1979年から、ユダヤ教神秘主 の　であるカバラについて学びました。そこからも、ユダヤ教のフィルタ を通した膨大なイスラ ムの影 を い出しました。

イスラ ム改宗の 定打となった出来事は、1990年にジャ ナリストとしてバルカン 国に旅したときに れました。そこではボスニア 争についてレポ トするため、サラエボを　しました。

サラエボでは くべきことを　しました。ヨ ロッパにおけるイスラ ムの僻地を　したのです。そこではムスリムの信仰者や学者らと直接触れ合うことができ、自分が旅行者であるということを忘れてしまいました。また、そこではイスラ ムの 品や といった　を表す美しい や音 とも出会いました。

私は有名なボスニアの歌の一 にあるような「古きイマ ムの庭 」を つけました。それは、バルカン 国におけるオスマン帝国 治下の　であり、イスラ ム文明への大いなる 献なのです。

私はバルカン 国への旅路でクルア ンの章句を み、イスラ ムの 史的建造物を れました。庭 へは何度も れ、最 的には中に入ることもできました。

イスラ ムを受け入れると、友人たちや 人、同僚などにそのことを告げるのには慎重を期しました。そこで　や　を生じさせたくはありませんでしたし、その事 を表面的または一 的なものと受け止められたくなかったからです。それは私自身のことではなく、アッラ についてのことなのです。ウンマ全体の福利にとって、また「ラ　イラ ハ イッラッラ 」を信じる信仰者たち全体の　において良いものにしたかったのです。

今のところ、たまに 礼な 言をされること以外には大きな　は生じていません。ニュ ス 集室の同僚たちは、より正 な 道をすることのできる人物がいるという事 に喜んでくれています。また他者は きつつも敬意を示してくれています。彼らはそれが政治的なことや知名度を上げるためのものではなく、 人的な い探求の 果であるということを理解してくれています。

正直に言うと、非ムスリムの人々は私のことをバルカン　での　に大きく影 された人物として ているようです。それゆえそうした　肢は理に ったものと受け止められているようです。

しかし、私は政治的 人道的な理由からムスリムになったのではありません。それは、言者ムハンマド（彼に平安あれ）の えた教えこそがアッラ の御意の最も明 な　であると信じているからなのです。

冒 で述べたとおり、私はユダヤ教 キリスト教における好ましい部分の多くはイスラ ムの影 から来たものであると ています。

スペインのカトリック教徒たちについて言及しましたが、スペインのカトリック教徒たちがその他のカトリック教徒たちよりもより く信仰心を感じている理由は、彼らの文化におけるイスラ ムの　に他なりません。いかに一部の人々がそれを えないと主 しても、十字 と 端　はその光をかき消すことができませんでした。

スペインにおけるアラブ人 政者たちの 容性、そして特にオスマン帝国のカリフたちによる 身な保 策なくしては、ユダヤ教はこの世から完全に消え去っていたかもしれません。ユダヤ教徒の 史家たちは、ムスリムとの共生による有益な影 がなければ、今日のユダヤ教は非常に なるものとなったであろうことを めます。

私が最も感 を受けたイスラ ムの 面は、アッラ への服 において享受する内面の平 です。私はそうした特 を、酷い苦 にありながら落ち着きを失わなかったボスニア人ムスリムたちの 切さ、思いやり、 素さ、そして　さ（イフラ ス）のなかに 出しました。

落ち着くことは私の人生をより容易なものにしました。日常生活で困 や　にぶつかったり、将来についての心配や怖れを抱いたり、自分の能力に して　を溜まらせたりすると、私の心は自 的にボスニアで出会ったムスリムたちや合同礼 での静寂や 和、そして何よりもクルア ンの清 で心をなだめる言 を思い出すのです。

私の唯一の　は、ユダヤ教徒 キリスト教徒たちとの　に する恐怖を り越えることです。私は世俗主 へと　することなく和解が れることを望んでいます。

米国においてイスラ ムがもたらすであろう最も大きな 献は、人 差 の解消と社会道 であると信じています。米国の人 差　 の解 策がイスラ ムであるという同胞マルコムXによる宣言の真理は、 もが めるものです。イスラ ムはまた、米国の道　 にも解 をもたらすものです。

私はムスリムになる前、知人の米国人ムスリムの　 、そしてバルカン 国のムスリムたちの道 的 さに感 しました。残念ながら、 在のウンマは深刻な分裂の状 にあり、ムスリムたちがお互いに争うのを るのは断 の思いです。また、 方正教会による帝国主 の被害者たちへのムスリムによる支援が欠如していることにも 念しています。イスラ ムは大い

なる平安と美を私の人生にもたらしました。周りの人にも常々言っていることですが、私は残りの人生をアッラ への奉仕に捧げるつもりです。 人的には、ボスニアとコソボのモスクの再建に尽くすことを誓っています。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/1985

著作　2006-2015 断　を禁じます。　2006 - 2023　IslamReligion.com. 断　を禁じます。